

PROGRAM

春	の	海	宮	城	道	雄
春	吹	横	山	勝	也
み	だ	れ	八	橋	檢	校
鹿	の	遠	音	尺	八	本	曲
二	つ	の	音	横	山	勝	也
虚	空	作	者	不	詳
風	動	曲	曲	正	邦

四季のコンサート 春

1991年4月16日火 6:45PM
浜松市民会館ホール
主催：浜松音楽友の会

吉澤輝美夫(第八)

1949年 大阪府高麗市に生れた。

1967年 民芸を勉強し、1969年上り0横山彌也氏に師事。

1971年 NHK朝楽技能者育成会にて同門。

1974年 K・那樂才一氏に学び、1976年上り6合板。

1977年 国際民芸研究会にて主催講師。

1978年 大成道子(第八・十七代)

1980年 洋裁大文学史料作家。

1982年 NHK朝楽才一氏に学び、1984年上り合板。

1984年 NHK朝楽技能者育成会にて主催講師。

1986年 民芸を勉強し、1980年上り0横山彌也氏に師事。

1987年 洋裁大文学史料作家。

1990年 NHK朝楽才一氏に学び、1992年上り合板。

1992年 NHK朝楽技能者育成会にて主催講師。

1993年 国際民芸研究会にて主催講師。

1996年 民芸を勉強し、1990年上り0横山彌也氏に師事。

1997年 洋裁大文学史料作家。

1998年 NHK朝楽技能者育成会にて主催講師。

2000年 民芸を勉強し、1994年上り0横山彌也氏に師事。

2002年 洋裁大文学史料作家。

2004年 民芸を勉強し、2000年上り0横山彌也氏に師事。

2006年 洋裁大文学史料作家。

2008年 民芸を勉強し、2004年上り0横山彌也氏に師事。

2010年 洋裁大文学史料作家。

2012年 民芸を勉強し、2008年上り0横山彌也氏に師事。

2014年 洋裁大文学史料作家。

2016年 民芸を勉強し、2012年上り0横山彌也氏に師事。

2018年 洋裁大文学史料作家。

2020年 民芸を勉強し、2016年上り0横山彌也氏に師事。

2022年 洋裁大文学史料作家。

2024年 民芸を勉強し、2020年上り0横山彌也氏に師事。

2026年 洋裁大文学史料作家。

2028年 民芸を勉強し、2024年上り0横山彌也氏に師事。

2030年 洋裁大文学史料作家。

2032年 民芸を勉強し、2028年上り0横山彌也氏に師事。

2034年 洋裁大文学史料作家。

2036年 民芸を勉強し、2032年上り0横山彌也氏に師事。

2038年 洋裁大文学史料作家。

2040年 民芸を勉強し、2036年上り0横山彌也氏に師事。

2042年 洋裁大文学史料作家。

2044年 民芸を勉強し、2040年上り0横山彌也氏に師事。

2046年 洋裁大文学史料作家。

2048年 民芸を勉強し、2044年上り0横山彌也氏に師事。

2050年 洋裁大文学史料作家。

2052年 民芸を勉強し、2050年上り0横山彌也氏に師事。

2054年 洋裁大文学史料作家。

2056年 民芸を勉強し、2054年上り0横山彌也氏に師事。

2058年 洋裁大文学史料作家。

2060年 民芸を勉強し、2058年上り0横山彌也氏に師事。

2062年 洋裁大文学史料作家。

2064年 民芸を勉強し、2062年上り0横山彌也氏に師事。

2066年 洋裁大文学史料作家。

2068年 民芸を勉強し、2066年上り0横山彌也氏に師事。

2070年 洋裁大文学史料作家。

2072年 民芸を勉強し、2070年上り0横山彌也氏に師事。

2074年 洋裁大文学史料作家。

2076年 民芸を勉強し、2074年上り0横山彌也氏に師事。

2078年 洋裁大文学史料作家。

2080年 民芸を勉強し、2078年上り0横山彌也氏に師事。

2082年 洋裁大文学史料作家。

2084年 民芸を勉強し、2082年上り0横山彌也氏に師事。

2086年 洋裁大文学史料作家。

2088年 民芸を勉強し、2086年上り0横山彌也氏に師事。

2090年 洋裁大文学史料作家。

2092年 民芸を勉強し、2090年上り0横山彌也氏に師事。

2094年 洋裁大文学史料作家。

2096年 民芸を勉強し、2094年上り0横山彌也氏に師事。

2098年 洋裁大文学史料作家。

2100年 民芸を勉強し、2098年上り0横山彌也氏に師事。



日本音楽のタベ

春の海

宮城道雄 作曲

昭和4年(1929)に作曲された宮城道雄(1894~1956)の代表作品。

昭和5年の宮中の歌謡会始の勅題「海辺巣」(かいへんいわわ)に因んでつくられたもので、以前に瀬戸内海を船で旅した時の印象から、波の音、鳥の声、漁師の舟唄などを素材にして標題楽としてまとめられた。

箏と尺八の二重奏曲であるが、昭和7年に来日したフランスのルネ・シュメーが尺八の部分をヴァイオリンに編曲し、宮城の箏で吹き込んだレコードが世界的にも好評を博し、宮城の代表作中の代表作として知られるようになつた。

春吹

横山勝也 作曲

尺八を吹く人そのほとんどが所有する一尺八寸管同士で合奏できるように作曲しました。尺八二重奏と云うと古典本曲に“鹿の遠音”がありますが、以来二重奏のジャンルがほとんど手つかずの状態です。もっともっと沢山の曲があつても良い筈です。私にとっては理里有楽(りりうら)に次いで尺八二重奏の二作目であります。

みだれ(乱輪舌)

八橋検校 作曲

みだれは、段物(だんもの)と呼ばれる曲の一つで、他の段物に比べ、段の区切りもなく、拍数の制限がなく、自由に曲が構成されている。そのため、この曲はみだれといわれている。

作曲者 八橋検校(やつはし けんぎょう)(1614~1685)は、今日箏曲と呼ばれている音楽の基礎を築いた人物であるが、1685年は、バッハが生誕した年でもある。

鹿の遠音

琴古流尺八本曲

歌人は「奥山にもみち踏み分け鳴く鹿の声聴く時ぞ秋はかなしき」と詠いました。

浮世の俗を断とうとして一本の竹(尺八)に身を託して諸国をさすらった虚無僧が鹿の遠く鳴く音に感じたものは何だったのでしょうか? 名利の外に生きたとはいえ、雨露もしのがねばならず、飢えとも闘わなければならなかつた筈。悟りの境地はいつになつたらと、空を仰ぐ日もあつたでしょう。

普化宗本曲の方が独奏で作られているのに、この曲は二管の掛け合いで作られている特殊性があります。曲名の示すまことに深山幽谷にこだまする雌鹿を慕って鳴く雄鹿の叫び声を描写していると解釈されるのが普通ですが、「声聴く時ぞ秋はかなしき」と詠じた歌人の心そのままに孤独感、寂寥感と解したい気持ちが湧いてまいります。文部省共通鑑賞教材曲に選ばれているこの曲は近い将来、今一度日本人の心のふるさととして多くの人々に愛される曲になることでしょう。又それを私は願つて止みません。

二つの歌

横山勝也 作曲

色は匂えど散りぬるを
我が世なれそ常ならむ
有無の奥山今日越えて
浅き夢見し醉ひもせ

アイウエオと並んでイロハニホヘトは我が国のアルファベットであります。機能本位のアイウエオと異なり前述の様な歌になるとこころが子供の頃から好きでした。器楽の後に続く二つ目の歌は、榮鹿秘抄にある童女(りゅうにょ)の教化(きょうか)で真言宗の声明です。

童女ですら仏になれるのであるから衆生は、きっと救われるという歌です。

17弦箏は通常二オクターブに調弦されますが、この曲では四オクターブにして音域を拡げています。尺八は一尺六寸管と二尺四寸管、能管の3本を使用。1978年作曲。

虚空

作曲者不詳

尺八古典本曲中最古の調べで、およそ7百年前の作と伝えられる虚空とは廣辞苑によれば、一切の事物を包含してその存在をさまたげない無為法とある。一切空の観念の音化とも考えられる。

風動

杵屋正邦 作曲

昭和40年12月、「尺八三本会」の委嘱によって作曲された。作曲者によると、風動という文字に魅力を感じて、それを、内面的に表現したいと以前から考えていたそうである。四つの部分(起承転結)からなり、起に当たる部分は、各奏者の受け渡しを主とする氷い呼気を思わせるもの、続いて承では刺戟的な音色を用い、一変して6/8とか5/8拍子による軽快な部分の転となり、再び静かな初めの感じが戻って結ばれる。

(田辺秀雄)